



資源循環

当社グループでは、サステナビリティに関する取組みのマテリアリティ(重要課題)の一つとして「資源循環」に取り組んでいます。

目指す姿 (当社100周年を迎える2047年を想定)	2030年目標	2023年度実績 (基準年度比)
<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷を低減するために、石油から新たに作られるプラスチックや、適切に管理されていない森林由来の紙資源を使用しない流通システムを構築する 	<ul style="list-style-type: none"> 物流資材における代替プラスチックへの移行とプラスチック類の再資源化100% すべての自社ブランド商品におけるサステナビリティへの配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 当社単体におけるストレッチフィルム、PPバンドの再資源化100% 自社ブランド商品へのサステナビリティ配慮率62.7%

プラスチック類の再資源化

当社の物流センター等から排出されるストレッチフィルムやPPバンドに関しては、焼却処理されていたものも再資源化が可能となり、再資源化100%が実現しました。この取組みをグループ会社にも水平展開し、グループ全体での再資源化100%をめざします。

自社ブランド商品におけるサステナビリティへの配慮

自社ブランド商品の開発段階において、関係部署に回付する商品開発稟議書や商品仕様書に「環境配慮包材(商品パッケージ)」に関してチェックする欄を設け、「プラスチック資源循環促進法」に対応するとともに、2030年までにすべての自社ブランド商品におけるサステナビリティへの配慮を実現します。



自社商品・自社留型 開発稟議書		① 提出先・商品企画部	
ブランド名		環境配慮包材 (商品パッケージ)	未対応理由:
商品名			
規格・内容			
製造方法			
環境配慮包材 (商品パッケージ)	<input type="checkbox"/> 再生紙 <input type="checkbox"/> 水性インク <input type="checkbox"/> FSC認証材 <input type="checkbox"/> 紙外装 <input type="checkbox"/> 再生アウ <input type="checkbox"/> その他		
商品名			

サステナビリティ配慮率の内訳

	アイテム数		配慮率
	全体	サステナビリティ 配慮対応数	
加藤産業(株)	304	207	68.1%
(株)グリーンウッド ファクトリー	82	16	19.5%
和歌山産業(株)	51	51	100.0%
合計	437	274	62.7%

新製品のサステナビリティへの配慮

紙包材のパスタ(Pezzullo)、カットトマト(PROSSIMO)を2024年春に新規発売します。



パスタ(Pezzullo)



カットトマト(PROSSIMO)

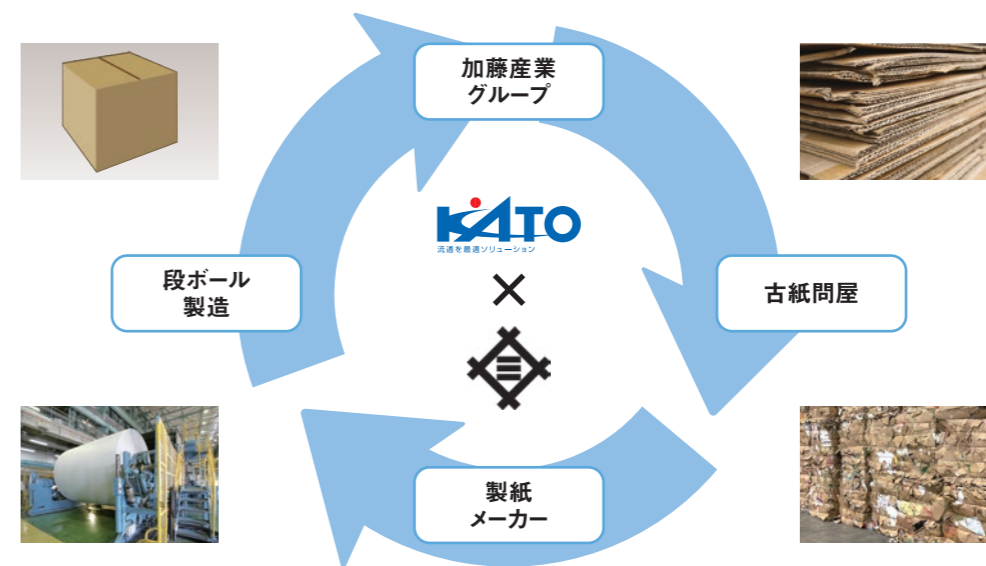


文具 Share Box の設置

机の中に眠っている粗品等の新しい文具を従業員で共有し、不要な買い足しを無くすことを目的に文具 Share Boxを設置しています。

クローズドリサイクルの取組み

当社グループの物流センターや製造工場から排出している段ボール等の古紙類に関して「古紙～段ボールケース」のループを形成し、サプライチェーンを可視化します。また、業界大手とパートナーシップを組むことで全国一元管理をし、安定して回収可能な仕組みを構築します。



クローズドリサイクルをコーディネートしていただいている三井物産パッケージング(株)のご担当者さまより

- Q. 静脈と動脈をつなげるクローズドリサイクルを推進しようと思われた動機は何でしょうか?
- A. サーキュラーエコノミーへの転換のために業界の枠を超え、静脈・動脈全体で環境負荷軽減と経済性とのバランスを取りながら事業をまとめる仕組みのキープレイヤーとして、静脈と動脈の結節点の役割を果たしサーキュラーエコノミー実現に貢献したいと考えたことがきっかけです。
- Q. 静脈と動脈をつなげるうえで困難だったこと、またどのように克服されましたでしょうか?
- A. まずは、静脈産業において排出された古紙の重量を拠点ごとに計測しトレースする必要があり、70拠点以上の現地調査を行いました。当該調査と各種情報の整理は多大な労力を要する作業でしたが、本取組みに共感し協力いただきました各事業所のご担当者さまのお陰により、静脈産業の状況を把握することが可能となりました。静脈産業における既存の回収業者から、動脈産業において原料化する製造メーカー、その原料を使って段ボールケースを製造する加工メーカーまで、各プレイヤーのご協力をいただいたのは、排出元でもありエンドユーザーでもある加藤産業さまの環境に対する積極的な姿勢にともなう力強い発信が後押しとなっています。
- Q. 今後の展望(段ボール以外の取組み)について、どのようにお考えでしょうか?
- A. 静脈産業において静脈資源管理事業を行う「三井物産ファーストワンマイル(株)」という新会社を2023年10月に設立いたしました。古紙に限らず、その他再生可能資源物を動脈産業につなげ、資源循環型ビジネスの入口としての役割を果たし、サーキュラーエコノミーの実現に寄与することを目的としています。『静脈でのファーストワンマイル事業』にてあらゆる素材のGreen Value Chain起点の機能で資源物を適切に回収、処理をし、動脈への回収資源提供機能にて資源循環ビジネス構築を加速させて参ります。まだリサイクルの仕組みが構築されていない資源物が多く存在します。今後古紙だけでなく様々な排出物の資源循環を構築し、限りある資源を企業さまとともに有効活用していきたいと考えています。また、加藤産業さまとの取組みのなかでは、古紙のクローズドリサイクルの拡大と、他素材の資源循環を進め、加藤産業さまの理想である資源循環を一緒に実現させていただけるように併走させていただきたいと考えています。

